

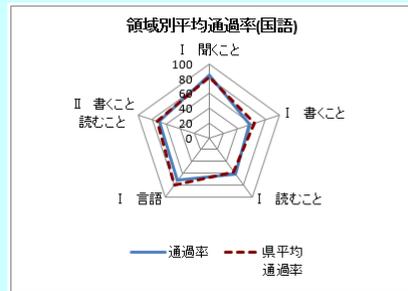
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 69.6%, 県 73.7%)

対県比 94.4%

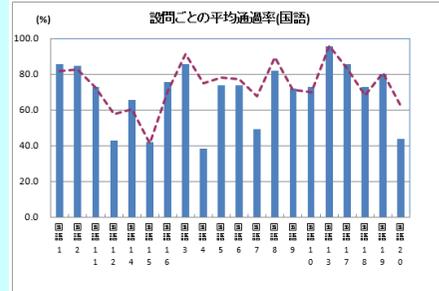
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題

本校 76.8%
全国 79.4%
県 80.1%

B問題

本校 49.0%
全国 51.0%
県 50.9%

○全体的な傾向について
国語の結果について、タイプⅠは 69.4%、タイプⅡは 70.5%であった。漢字や語句などの基礎的な内容についても定着しきれていない部分があった。
○昨年度の課題への取組の成果・課題
昨年度に引き続き、事象や行為などを表す多様な語句を文の中で適切に使えていない。一方、昨年度は低かったタイプⅠ、Ⅱの書くことの通過率が上がっている。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 100%

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

文章の展開を確かめながら要旨を捉えることができていない。(通過率41.8%)

【課題2】全国学力・学習状況調査

資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことができていない。(通過率22.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

説明的文章の学習において、授業の中で段落ごとに要約する活動を取り入れる。要約するために必要なキーワードを抜き出させ、その段落において重要な文を確かめた上で要約をさせる。

【課題2】全国学力・学習状況調査

特にグラフや図表を用いて書かれている説明的文章の学習においては、資料を適切に読みとる力を育成する活動を行う。教科書に掲載されている資料以外にも、多様な資料を準備し、その資料を読み取らせる活動をさせる。さらに、読み取ったことを整理して記述させることで、説明する力をつける。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 期末テスト		2年生 H26「基礎・基本」	
目標値				70.0%		72.0%	
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年生 期末テスト		2年生 学年末テスト	
目標値				70.0%		70.0%	
実施後数値							

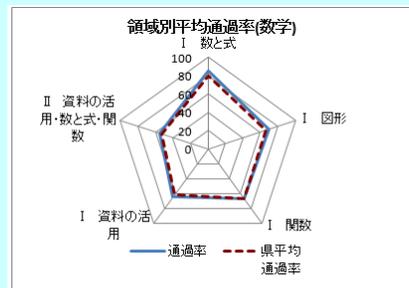
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 73.7%, 県 70.2%)

対県比 105.0%

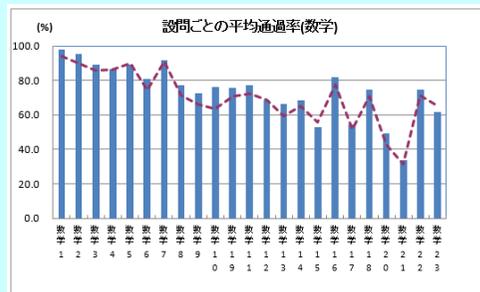
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題

本校 66.8%
全国 67.4%
県 68.4%

B問題

本校 58.3%
全国 59.8%
県 60.5%

○全体的な傾向について
数学の結果において、タイプIは77.7%、タイプIIは54.8%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、一方では応用問題を苦手としている生徒が多く、あまり定着が図られていないと考えられる。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

100%

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

タイプIIの10 問題解決方法の説明 (平均通過率 33.6%)

数学的用語を用いて、自分の考えや問題解決方法を説明することに課題がある。立式はできるがそれを自分のことばで説明することを苦手としている。

【課題2】全国学力・学習状況調査

数学Bの4 (2) 付加された条件の下で証明を振り返って考え、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を用いることに課題がある。(正答率 20.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

生徒一人一人に数学的用語を用いた説明が定着できるように授業の中で集団思考の場面を多く取り入れていく。また特に苦手とする生徒についてはキーワードの書いてあるヒントカードを与え、そこから説明文を書くことができるようにしていきたい。

【課題2】全国学力・学習状況調査

証明の課程や結論を基に、発展的に考えることができるようにするために、証明問題に取り組むだけでなく、条件を変えたり、証明を読むことを通して、新たな性質を見いだす活動を取り入れる。多様な性質を持った教材を準備し、小グループで多面的に考察させ、意見を交流させる。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 中間テスト		2年生 期末テスト		2年生 学年末テスト	
目標値		50.0%		60.0%		70.0%	
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				3年生 期末テスト	3年生 学年末テスト		
目標値				35.0%	40.0%		
実施後数値							

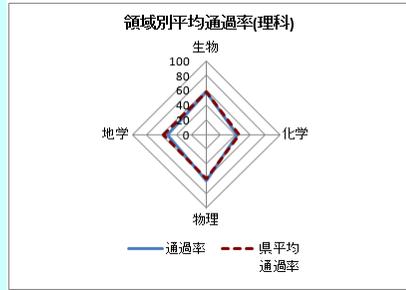
指導方法等の改善計画について [理科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 52.2%, 県 55.0%)

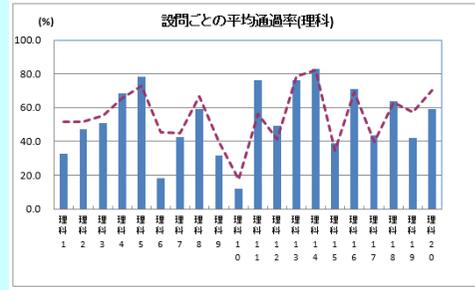
対県比 94.9%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



○全体的な傾向について
 ・理科の結果において、タイプIは55.7%、タイプIIは46.9%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容の定着及び応用・活用力についての定着とも不十分であると考えられる。

○昨年度の課題への取り組みの成果
 ・昨年度は、地学と物理の分野で課題が見られた。また、実験結果や資料から考察し、結論を見いだす問題の正答率が低い傾向にあった。そこで、課題のある分野については、振り返り問題を実施したり、既習内容と関連させた授業展開を行った。また、実験等を工夫し、相互作用を充実させ、表やグラフで表現させる取り組みを行った。結果として、地学では、25.2ポイント、物理では33.3ポイントアップした。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

100%

重点課題

【課題1】火山灰の観察方法 (平均通過率18.2)

・実際に火山灰を使った観察を行っておらず、口頭での説明に止めており、十分な観察方法が定着していない。

【課題2】溶質の再結晶 (平均通過率11.8)

・「溶解度」「飽和水溶液」の意味の理解が不十分で、設問の理由を答えることはできるが、この2語をどのように使うかと連動していない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】 どの実験・観察も細かく行い、結果の分析方法にも相互作用を取り入れた改善を行う。

【課題2】 基本的な用語の理解を深めるため、用語の説明に止めず、用語を使った発表やワークシートへの記入をする機会を必ず設定し、理解を深める。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	1・2年生 復習テスト	1・2年生 中間テスト		1・2年生 期末テスト		1・2年生 学年末テスト	
目標値	65.5%	65.5%		68.5%		70.0%	
実施後数値							

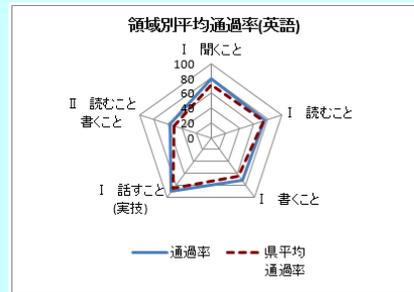
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生 中間テスト		1・2年生 期末テスト		1・2年生 学年末テスト	
目標値		55.0%		55.5%		58.0%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.2%, 県 68.2%)

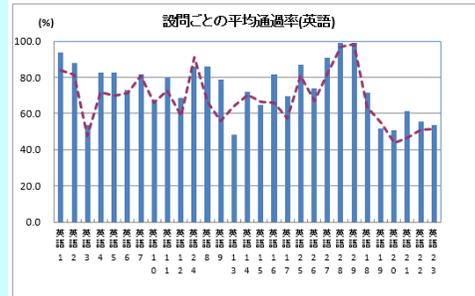
対県比 108.8%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



○全体的な傾向について
英語の結果において、タイプⅠは 78.6%、タイプⅡは 57.4%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、一方では応用問題を苦手としている生徒が多く、あまり定着が図られていないと考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度は、英文の必要な部分の読み取りや、基本的な文の決まりや語順を理解して文を作ることに課題が見られたので、Q&A や英文について感想を書く活動や、文の決まりや語順を視覚的に理解させる活動に力を入れた。語順については改善がみられたが、必要な部分の読み取りには課題が残った。

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】
過去形を用いて自分のことについて内容を考えて書くことができていない。(48.1%)

【課題2】
適切に情報を読み取ることができていない (50.7%)

【課題1】 be 動詞の過去形を用いていたケースが多かったため、be 動詞の文と一般動詞の文、助動詞を含む文など、文の種類を区別しそれに対応した文のルールをはっきりするため、小テスト等で文のルールを定着させる。その上で定期テストに出題し、結果を分析しながら指導への活用を図る。

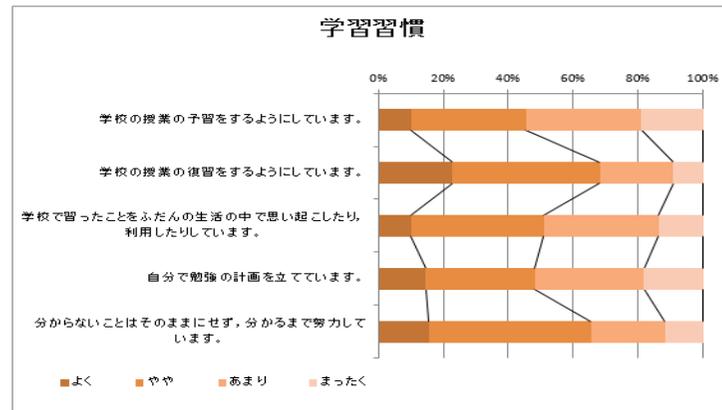
【課題2】 問題では、提示された資料 (ポスター) からだけでなく、地の文からの情報も合わせて読み、そこから答えを導き出さなければならない。教科書本文などの文章読解の際に、内容を表やグラフ、絵にしたものと対応させて Q&A を行うなど、内容把握の工夫を行う。また、定期テストにも同様の問題を出題し、結果を分析しながら指導への活用を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1, 2年生 期末テスト			1, 2年生 学年末テスト
目標値				65%			80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1, 2年生 期末テスト			1, 2年生 学年末テスト
目標値				60%			70%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

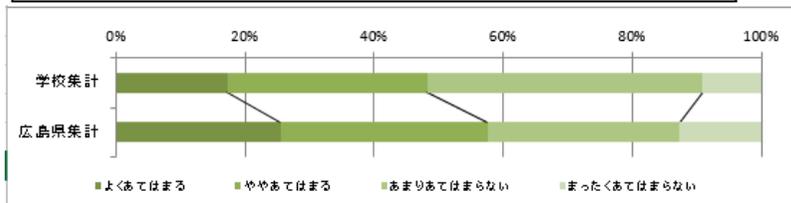
(1) 生活・学習



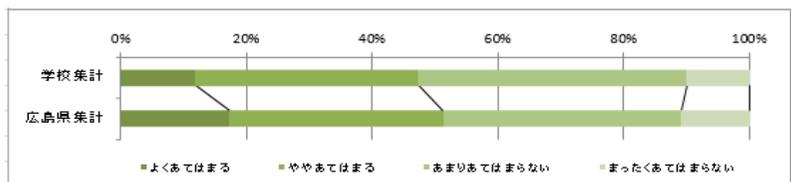
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
自分で勉強の計画を立てている生徒が少ない (肯定的回答 48.1%)。	・家庭学習への意識を高めるため、家庭学習の手引きを活用し、各教科で授業の復習の仕方を指導するとともに、家庭学習の調査をしたり、テスト勉強の計画を立てさせたりする。	1年・2年	70%	アンケート	学期末		

(2) 教科

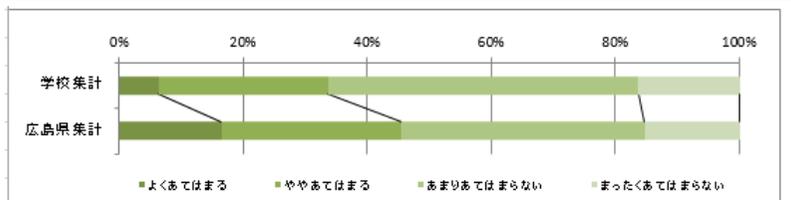
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



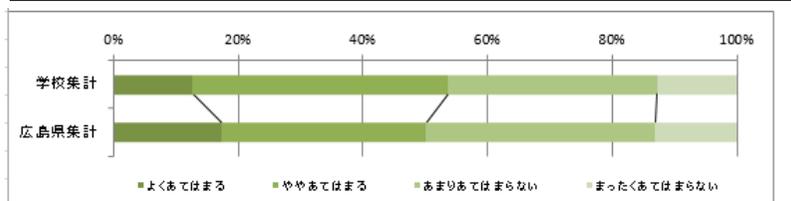
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。(よくあてはまる、ややあてはまるの計 48.2%)	・説明的文章や文学的文章についての学習の際には、辞書を机の上に置いて学習させる。 ・ノート・メモ欄に、分からない語句について調べて記述させる。	1年・2年	60.0%	生徒アンケート	学年末		
数学	数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。(よくあてはまる、ややあてはまるの計 47.3%)	・問題を解くための計算式だけでなくその理由もノートやワークシートに書かせるようにする。 ・集団思考の場面を多く取り入れ、他者の考えを聞く場面を多く作る。	1年・2年	60.0%	ノート・ファイルチェック	定期テスト後		
理科	理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。(よくあてはまる、ややあてはまるの計 33.7%)	・設問を工夫し、簡易な内容にする。 ・個人思考から集団思考への流れをより多く取り入れた授業展開をする。	1年・2年	40.0%	生徒アンケート	毎学期末		
英語	英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。肯定的回答が 53.2% と低い。	・まとまった量の英語を聞いたり、読んだりする活動を仕組みその際にメモの取り方を指導する。本文の読解などの後に内容について書く活動をする。	1年・2年	70.0%	生徒アンケート	学年末		